

令和2年度 加納中学校 学校経営計画

学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営 ビジョン	「命を大切にできる学校」「楽しさを実感できる学校」を柱に、チーム 加納中で学校、生徒、保護者、地域の強み（よさ）を生かした魅力ある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。
--------------	--

【自己評価書】 4段階評価：4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校関係者評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
知育	授業力を高め、学力を向上させる。	授業の中に「しっかり教える」「じっくり考えさせる」「はっきり表現させる」場を位置づけ、各場面における効果的な手立てを取り入れた授業を実践する。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」、「楽しい」が80%以上である。	・学力の定着と向上を図るために、「学びのサイクル」に基づいた授業の展開を、どの教科においてもおおむね統一して実施する。	3	3	生徒アンケート「毎日の授業がわかる・楽しい」3・4段階86%、学力の定着を図るために「学びのサイクル」に基づいた授業を展開しているが、一定の効果がみられる。この取組を今後も継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4段階が86%はすごく良い。 ・一人一人の生徒の学力の定着を重視して、本校の特色のある授業改善の方策は素晴らしい。特に「学びのサイクル」の実施は、成果をあげてきている。今後更に実践を重ねた工夫・改善を図ってもらいたい。個人差に応じた学力の定着度のレベルをどう把握するかは、なかなか難しい。しかし、特段の方策を講じて取り組む必要がある。 ・先生方の努力で、十分に成果が出ていると思うが、残り14%の生徒への具体的指導も知りたい。
		全職員が一人一授業を実践し、職員間で指導内容や指導方法を共有し、指導力を高め合う。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」、「楽しい」が80%以上である。	・ICTの活用や学習課題の明確な提示など、授業改善を行う。 ・校内研修と連携し、全職員が1回以上の研究授業を行い、授業力向上を目指す。	3	3	コロナ禍の影響もあり、昨年度以上にITCの活用が進んでいる。「しっかり理解する」「じっくり考える」「はっきり表現する」を意識した授業づくりに取組み、研究授業も進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・大変よい。 ・本校の「学びのサイクル」の授業の中で、最良のICTの活用法を繰り返し繰り返し実践する中で、一つの授業パターン化、あるいは、ルールづくりができると素晴らしい。マンネリ化しないよう常に新しい視点にたった工夫改善の目標をもって行うことが大切であると考えている。ICTの特色とその活用法を全職員が早急に熟知して、授業における日常ができること望みたい。 ・ICTの活用が学年や教科をどのくらいの割合で進んでいるのかも知りたいものです。
		学習規律の徹底を図り基本的な学習習慣を確立させる。	生徒による学校生活アンケートで、『「2分前着席」、「1分前黙想」など、学習ルールが守られている』が85%以上である。	・年度当初に学習指導集会を開き、生徒に取組の説明を行う。 ・学習委員会の活動を活性化し、生徒の自治的な活動を通して、学習規律を向上させる。	3	3	学級役員を中心に授業開始時の呼びかけを行い数値目標は達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・授業の成果をあげる方策の一つとして学習の規律の訓練は極めて重要な要素である。生徒の学習に対するモチベーションをあげることもつながる。本校では、生徒の主体的な行動により、学習訓練が日常化できているのは評価でき、素晴らしい。学習意欲・姿勢につながる態度化として目的に訓練できることが望まれる。 ・生徒たち自身の取り組み、とてもよい学習環境が作られていっているの、良いことだと思います。
		家庭学習を充実させるための手立てを講ずる。	テスト学習支援プログラムに示されている学習内容を90%以上の生徒が1回以上は取り組んでいる。	・テスト学習支援プログラムに全校で取り組み、生徒の主体的な学習習慣や態度を育み、学力の向上を図る。 ・宅習内容の充実を目指し、日々の点検や指導を行う。	3	3	学習委員会を中心に様々な学習対策に取り組めた。昨年度に引き続き、ドリカムシートに取り組みながら、テスト学習支援プログラムを利用した事前・事後の効果的支援を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・大変良い。 ・全ての生徒が何をどう取り組めばよいかの支援プログラム化は、極めて効果的な方策であると考えている。生徒一人一人が自分の力量に応じて、学習計画と方策を打ち立て、意欲的・意図的に取り組むことができることは、大変大切なことである。日々の授業と家庭学習の一体化を図る工夫も大切であると考えている。 ・コロナ禍の中家庭学習の支援は、大変だと思います。プログラム化されているシステムはいいことですね。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント		
				指標別	総合					
德育	心の教育を推進し、生徒の規範意識の醸成を図る。	生徒の良さを認め伸ばす指導を推進し、生徒の自己肯定感を高める。	・生徒による学校生活アンケートで『生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす』が85%以上である。	・朝の会・帰りの会を使い、委員会活動を活発化し、スピーチ活動を行うと同時に賞賛の場を多く設ける。 ・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。	3	アンケートによると、3・4段階が81%と目標にやや届いていないが、内訳を見ると3年生が肯定的な割合が多くなるので、粘り強くよさを認める指導を3年間続けていきたい。保護者は3・4段階が89%の評価で、ある程度理解してもらえてる考える。一人一人のよさを生かし支援していきたい。	3	・よろしくお願ひします。・具体的数値目標は、アンケート結果によると目標達成はできていないが、3年間の実践の積み上げにより、成果が得られているのは評価できる。保護者の意識の高さは、3・4段階において89%の数値結果が出ており、かなり高い評価であり、素晴らしい。このことは、日々の学校の実践の成果によるものと評価できる。 ・生徒一人一人に目を配る指導は、とても大変なことだと思ひます。保護者の理解のある評価に自信をもち頑張ってください。		
		Q-U検査の結果をもとに、全職員で生徒一人一人に適切な指導、支援を行う。	・分析結果で学校生活満足群の生徒の割合が60%以上、不満足群の生徒が10%未満である。	・学級の状況を分析し、指導と生徒の状況のマッチングを図り、具体的手立てを研修などを通して学ぶ。また、学年全体で共通理解をして、共通実践をしていき、満足群が増え、不満足群が減っていく努力を行う。				2	Q-Uの集計結果によると学校生活満足群の生徒の割合が1年生で平均55%で不満足群の生徒が1年生で平均22%であった。今後、生徒一人一人の様子を観察し、適切な支援を行っていく。また、1年生に関しては、第2回のQ-Uを実施する予定であり、更なる改善を図ってきたい。	・ある一人の一年生の女子が入学して、間もない時に「中学校にはピシャピシャとさせられる」と言っていたのですが、2学期が終わるころには、挨拶等がピシャと身に付いていたので社会人になってもやれると思ひます。 ・科学的な手法による客観性の高いQ-U検査の実施によって、日常指導の在り方とその成果を明確に把握でき、とても素晴らしい。一年生の分析結果によると、満足も不満足も良好な数値結果は得られていない。中1ギャップ(バリアーをより少なくする方策)に係る特段の配慮と具体策が強く求められる。 ・コロナ禍の中入学してきた1年生の実績は、理解できます。今後の指導で、どう変容していくか期待します。
		SCやSA、SSW等と連携し、いじめ、不登校等の未然防止と早期解決に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『先生は気軽に相談に応じている』が85%以上である。 ・不登校数の減少を図るとともに、新規不登校者を出さないようにする。	・教育相談の時間をしっかり設定する。 ・相談アンケートの回数を増やす。 ・SCやSSWとの相談会議を増やす。				3	アンケートによると、3・4段階は88%であり、教育相談などを通してほぼ応じている状況である。また、SCなどの専門的な機関とも連携を図り、不登校生の減少や様々な問題に対して支援しているところである。今後とも粘り強く支援していきたい。	・大変良い。 ・不登校生徒の原因究明は、個々の生徒により異なり、ポイントや方向性を特定して、指導の成果をあげていくのは容易ではない。色々な方策をくり返し、くり返し行って一つの方策や方向性を定めて実践し、少しずつ成果を期待していく努力をすることが大切であると考え。過去に不登校を経験した卒業生やその保護者の体験話を聞くことも大事であると考え。アンケート結果の3・4段階88%は、とても評価できる。 ・方策、手立てが、しっかり実践されているのでよいと思ひます。
		人権教育や道徳教育の充実を図り、健全な心の育成に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『マナーや校則などルールを守ることが身についているか』『周りの友達に対して優しく接することを心がけているか』が85%以上である。	・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。 ・日常生活の中で言語環境を整え、思いやりのあつる学級集団作りを行う。				3	アンケートによると、3・4段階は93%以上であり、全体的に肯定的な回答が得られた。今年度は、あいさつの徹底を行うなどして、マナーなどの定着を進めている。さらに、いじめのない学校つくりのために、いじめ撲滅委員会を立ち上げ、様々な活動を行っている。	・学校(校内)では、よく挨拶するが、外ではできていない。 ・こちらから先に挨拶しても全然しない生徒がいます。 ・生徒の学校生活アンケート結果によると、3、4段階で93%以上と大変高い回答数値が得られており、とても評価できる。人権教育や道徳教育の根幹である「人間尊重の教育」は、人間の必須の課題であり、「心の教育の育実」につながるものである。日常における継続的な教師の指導と生徒の主體的な取組が強く求められる。 ・マスク着用が日常したなか、あいさつ等、新しいマナー様式も考えなければならない学校生活となりましたね。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標即	総合			
体育・食育・健康教育	健康に対する関心を高め、健康で安全な生活を送ろうとする実践力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康に関心をもたせる取組を推進する。(部活動、学校行事、立腰指導、健康教室等) ・立腰指導徹底100%を目指す。 ・新体力テストの上体起こしで県平均を上回る。 ・健康教室室出席率85%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立腰集会、立腰指導の実践、立腰アンケートの実施。 ・授業ウォーミングアップで腹筋運動の実施。 ・PTA保体部会で積極的に呼びかけを行う。 	3		<ul style="list-style-type: none"> 集会が実施できなかつた為、授業をはじめ色々な場面で指導を行っている。授業はじめに補強運動として腕立て伏せ、バーピージャンプを行い、筋力向上に努めている。PTA関連の行事は実施されなかつた。コロナの影響があり、実施できない状況、今後どう実施できるか考えていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、予定に基づいた実践ができないため、授業をはじめ、諸活動の中で工夫・改善をしながらの取組は、とても評価できる。今後、補充を行うための各種の方策や手立てを早急に検討して、重点的に具体的実践を行う必要がある。 ・補強運動が取り入れられていることは、良いことですね。先生方が意識すればいろいろな場で体を動かす運動ができそうですね。
	朝食100%摂取、給食の残食ゼロを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出100%を目指す。 ・給食の残食調査において、残食0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題として、次のいずれかを行わせる。 ①元気の出る朝ごはんを作り、レシピを提出する。 ②夏休みのクッキングイベントに参加する。以上を選び、生徒の意識づけを行う。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果は、93%摂取。給食は残食は最初より減っているが、ゼロにならないクラスがある。朝ごはん作りは、一食分の献立調理に変更したら、ほぼ全員提出し掲示している。クッキングイベントは新型コロナウイルス感染症のため中止した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・朝食摂取率93%はとても評価できる。朝食の摂取は、人の生活上の極めて大切なことであるが、摂取せずに登校する生徒が最近増加傾向にある。この点については、本校はとても素晴らしいが、継続してもらいたい。更に100%めざして、内容も充実していく必要がある。コロナ禍のため、クッキングイベントの中止は残念である。 ・朝食、給食ともに完食を目指すこと大変ですね。生徒それぞれの実態のもと貴重な具体的指導をお願いします。
	弁当の日の実践をとおして、食に対する関心と感謝の心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の生徒が作るお弁当の日を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の時間に1、2年生は地域の食材を使った弁当作りを実践する。 ・食育指導を段階的に行い、実践項目のレベルアップを図る。 	3		<ul style="list-style-type: none"> お弁当の日、1回目は中止、2回目は実施できた。地域の食材を使った弁当作りを今後は計画していく予定である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・食に対する生徒の意識の高揚を図る手立てとして、「弁当の日」の実践は大変重要であり、とても評価できる。特に地域の食材を使用しての弁当づくりは、地産地消の視点からも評価できる。今後とも、コロナ禍の問題もあるが、弁当づくりは、工夫しながら取り組んでもらいたい。 ・1回でもできて、食への関心は持てたでしょう。
	安全意識を高め、行動できる力を育てる安全教育を推進する。(避難訓練の工夫、危険予測学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年2回、シェイクアウト訓練年3回、全生徒の安全・防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、防災に関する訓練を計画通り行うことで、日頃から地震、津波その他の危険に対して備える。 ・いろいろな場面における危険を予測し回避する力を育てる安全教育を行う。 	3		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は2回実施した。しかし、コロナの関係で十分な訓練ができなかつた。シェイクアウトは年内に実施予定である。ケガによる保健室来室もいるので安全教育の充実が必要である。すべてを通してコロナ対策を考えた行事イベントを実施していく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・日向灘地震や南海トラフの問題が喫緊の課題としてその対応の在り方が問われている中で、学校において、日頃から、全校あげて意図的、計画的、継続的に実践されていることは大変評価できる。先ず大事なことは、生徒をはじめ、関係者の生命、安全の尊重を図ることは極めて重要なことである。シェイクアウトの訓練は、コロナ禍の中ではあるが、是非とも実施していただくようお願いしたい。コロナ禍の時代、安全に生きるための方策をしっかりと身につけてください。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
学校環境整備充実	家庭や地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。	授業等において地域人材の積極的な活用を図る	地域人材100%活用を目指す。	・教科において活用可能な教材を精選し、地域の人材を生かした授業の充実を図る。	3	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症の中、家庭科の授業において、裁縫の実習や調理実習で、地域人材を効果的に活用することができて良かった。</p> <p>・大変良い。・コロナ渦の中で、家庭科の授業において、被服の裁縫又は調理実習などの学習で、地域の人材を効果的に活用できたのは、とても評価できる。他の教科への広がり期待したい。保健体育や社会科などにおいては、容易に活用できると考える。</p> <p>・コロナ禍のなか、工夫され実践できてよかったです。</p>
	学校ホームページや学校だより等を活用し、地域への情報発信を行う。	参観率80%以上を目指すし、意見を集約していく。	・学校ホームページを定期的に更新し、学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便り、生徒指導だよりを毎月発行する。 ・通信ファイルを活用し、保護者との情報交換を行う。	3	3	3	<p>保健便り、生徒指導だよりは定期的に発行することができた。学級通信はほとんどの学級が定期的に発行することができた。ホームページは、新型コロナウイルス感染症のことがほとんどで、行事等について情報を発信することができなかつたので来年度は、改善したい。</p> <p>・仕方がない。コロナ渦中でも、先生方はよくされている。 ・地域の中の学校として、学校は常に地域と深く関わって経営がなされている。本校は、この点においてとても評価できる。従って、常に学校の情報を適切に発信することは、極めて大切なことである。コロナ渦により、不足の点については、今後、工夫・改善しながら適切な対策を講じてもらいたい。</p> <p>・学校のコロナ対策をしっかり発信し、保護者の安心度を高めてよかったです。</p>	
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	保護者アンケートで、「ホームページを見る、学級通信・学校便りを読む」が80%以上。	・学校行事（入学式、体育大会、文化発表会、立志の集い、卒業式等）への案内を出し、評価委員の方々が学校に来られやすいようにする。	3	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症防止のため、学校行事等に来られる機会がほとんどなく意見を伺うことがあまりできなかった。</p> <p>・しかたがない。 ・本年度は、年度当初からコロナ渦により、登校できず、日常的な円滑な評価活動が得られなかったのは、大変残念であった。一回だけ特設して、全学級の授業を2時間程度参観させていただいたが、どの学級もとてもいい授業がなされていた。</p> <p>・学校来訪ができず、本当に残念でした。</p>	
	地域の関係諸機関と連携した学校運営を推進する。 (まちづくり協議会、青少年育成協議会、加納中協力者会等)	学校関係者評価委員会を計画的に行い、評価委員の方々の意見を伺う機会を多くもつ。	・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生児童委員協議会、等との連携を深める。 ・地域のボランティア活動の内容について職員が理解し、生徒への参加を促す。	2	2	2	<p>新型コロナウイルス感染症防止のために、各協議会も中止になり連携が難しかった。地域の行事等も中止が多く参加することができなかった。八重川の清掃のボランティア活動には熱心に参加し活動することができた。今後も地域と一体となった活動を推進していきたい。</p> <p>・八重川の清掃ボランティアに参加する生徒の数が多くて、加納まちづくり協議会役員に喜ばれている。 ・清武体育協会主催の相撲大会、なわとび大会とソッケン駅伝大会にも多数のボランティアの生徒があり、毎年助かっているが今年中止でした。 ・コロナ禍により、地域における関係諸機関等との円滑な連携活動や行事等の中止により、学校との相互理解や支援の機会などが縮小されたのは、とても残念であった。地域におけるボランティア活動は、とても重要であり、本校生徒が参加できたことは、とても評価できる。今後、より一層たくさんの生徒が、多くの体験活動に参加できる方策を講じることが大事であると考えます。・今年度の実情は、致し方ないと思います。八重川のボランティア活動ができてよかったです。</p>	